

公益財団法人 8020 推進財団 令和元年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録	
1. 事業名：	フッ化物洗口普及啓発事業
2. 申請者名：	一般社団法人秋田県歯科医師会 会長 藤原 元幸
3. 実施組織：	一般社団法人秋田県歯科医師会、秋田県
4. 事業の概要：	<p>(1) 歯科保健教育の強化</p> <p>(i) フッ化物洗口の更なる普及啓発を目的とし、洗口の実施状況や成果をまとめたリーフレット等の啓発資材を作成する。</p> <p>(ii) 幼稚園や小中学校等における訪問歯科保健指導を充実させることにより、更なるフッ化物洗口の普及を目指す。</p> <p>(2) 第41回むし歯予防全国大会 in AKITA の開催            メインテーマを「目指そう健口寿命も日本一！～秋田県の健口づくり『これまで』と『これから』～」と題し、県が掲げる健康寿命日本一を目指すにあたり、「安全に美味しく食べられること」や「楽しく話せること」といった健口寿命の価値を改めて考え、そのための1つの手段として、フッ化物洗口を継続して行う重要性を多くの県民に再認識してもらうために、特別講演とシンポジウムを行う。</p>
5. 事業の内容：	<p>(1) 歯科保健教育の強化</p> <p>フッ化物洗口の更なる普及啓発を目的とし、洗口の実施状況や成果をまとめたリーフレット等の啓発資材の作成を検討した。継続事業となっていることから、次年度作成し、普及啓発活動を行う予定である。</p> <p>(2) 第41回むし歯予防全国大会 in AKITA の開催            テーマ：「目指そう健口寿命も日本一！」            ～秋田の健口づくり『これまで』と『これから』～            基調講演：「なぜ今、むし歯予防が必要か？」～健康寿命の延伸に向けて～            東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野 准教授 相田 潤            シンポジウム 座長：東京歯科大学名誉教授 眞木 吉信</p> <p>○「秋田県におけるフッ化物洗口の普及状況について」            秋田県健康福祉部健康づくり推進課技師            口腔保健支援センター副センター長 田所 大典</p> <p>○「秋田市における小中学校のフッ化物洗口の取組について」            秋田市教育委員会学事課主査 金森 陽子</p> <p>○「健康長寿の延伸と歯科公衆衛生」            深井保健科学研究所所長 深井 稜博</p>
6. 実施後の評価（今後の課題）：	<p>令和元年11月16日（土）に秋田市にて開催した。参加者は181名となり全国から多くの方々が来場された。</p> <p>当県におけるフッ化物洗口の実施率は他都道府県と比べ高く、12歳児の永久歯う蝕経験歯数はこの10年で大きく減少しており、これまでの歯科医療関係者、行政・学校関係者等の取組の成果を確認できた。</p> <p>一方で、う蝕は12歳以降も増え続け、生涯にわたる健康リスクとして拡大しており、歯科疾患の国民医療費に占める割合も大きいことから、フッ化物応用を全世代により一層普及していくことで健康格差の是正を目指していくことが今後の課題と考えられる。</p> <p>そのためには、超高齢社会に対応した個人への対応と公衆衛生施策の両輪が必要であり、切れ目のないライフコースアプローチが重要である。</p> <p>さらに、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの観点からも、歯科単独の指標を政策評価に位置付けるのではなく、がんや糖尿病等の非感染性疾患や要介護・フレイル予防の施策の中にも組み込みつつ、多面的なアプローチを継続していくことが求められる。</p>